

第2回 岩木川流域治水協議会

青森河川国道事務所

～水害からみんなで津軽の人々の「いのちとくらし」を守る防災減災の推進～

■概要

第2回岩木川流域治水協議会では、関係機関の参画に伴う構成員追加の規約改定が承認され、今年度末に策定を予定している「岩木川水系流域治水プロジェクト」の概要について共有を諮り、今後岩木川流域が一体となった治水対策を推進していくための意見交換を行いました。



WEB会議の状況

■開催内容

開催月日：令和3年2月18日（木）

開催場所：青森河川国道事務所 2階 災害対策室（WEB会議）

構成員：青森市長、弘前市長、黒石市長、五所川原市長、つがる市長、平川市長、藤崎町長、板柳町長、鶴田町長、中泊町長、大鰐町長、田舎館村長、青森県農林水産部長、青森県県土整備部長、青森県危機管理局長、北奥羽土地改良調査管理事務所長、津軽森林管理署長、森林整備センター東北北海道整備局長、青森地方気象台長、青森河川国道事務所長、岩木川ダム統合管理事務所長

議事概要

- 1) 規約の改定
- 2) 流域治水プロジェクトの概要について
- 3) 意見交換

■ご意見・コメント等

- ・コロナ過の中で住民意識の向上を図る取組ができないことが大きな課題である。県防災訓練に各流域自治体が参加いただくことで意識を共有し、広域で防災に対する取り組みを推進していきたい。
- ・国交省、青森県が中心となって河道掘削や樹木伐採等を継続的に実施していただきたい。災害が少ない中、住民は「大丈夫だろう」との認識がある。9つしかない自主防災組織を全域に広げるためには、熱い情熱で地域に訴えていくことが我々の使命と考える。ハード面、ソフト面を連携して実施していく意識が必要であり、地域連携や住民参画型の防災に向けて情報を発信していきたい。
- ・全域が浸水想定区域になっているため、広域避難が必要と考えている。広域避難の実現に向けて、体制等の様々な課題があり、早期に避難勧告の判断が求められるため、水位や降雨等、関係機関からの的確な情報提供をお願いしたい。
- ・岩木川と十川に囲まれており、町の大半が浸水想定区域となっているため、広域避難が必要であり、周辺市町の協力を得ながら広域避難の体制等について協議していきたい。
- ・平成22年、平成25年の豪雨災害では、上流部のダム整備等により町中での災害はなかったが、平川支川で橋梁の流出や農地災害が発生している。地域住民の安心のため、平川や岩木川の整備に協力していきたい。